

アフリカの草原ゾーンを眺めながら召し上がれ！ アフリカンメニュー登場！！



平川動物公園の目玉の一つ、アフリカの草原ゾーンを望むことができる食堂では、アフリカンメニューが登場！！アフリカの Pasta で有名なクスクスを使った煮込み料理や、キリマンジャロコーヒー、そして小説「星の王子様」に登場する「バオバブ」のジュースなど、アフリカン気分を味わっていただくことができます！

チキンムアンバ

チキンのトマト＆ハリッサ煮込みに、世界10大美味！世界最小 Pasta のクスクス添えです。



¥780

キリマンジャロアイスコーヒー

タンザニア産の大粒豆を表すトップグレードAAを使用して丹念にネルドリップ！キレのある酸味！力強いコク！



¥350

バオバブジュース

名作「星の王子様」でおなじみ！アフリカのスーパーフルーツバオバブを使用！飲みやすくレモネードベースで仕上げました！

抗酸化物質がザクロの7倍、カルシウムは牛乳の4倍、鉄分は赤身の2倍、ビタミンCはオレンジ30個分、マグネシウムやビタミン類も豊富！



¥350

食堂のウッドデッキには、新たに屋根も付き、より快適に過ごしていただけるようになりました。アフリカの草原ゾーンの動物たちと桜島のコラボを楽しみながら召し上がれ！！

遊び倒そう！
遊園地紹介



飛行塔



お待たせしました！修理のため運休していた飛行塔の運転が再開しました！年齢問わず人気のある乗り物で、ZOOっと平川25号では、人気の大型遊具紹介で見事NO.1に輝きました。その人気の秘密は、離陸してから上昇下降を繰り返しながらのスリル＆爽快感満点の飛行！高さ7メートルまで上昇します。定員は4名、どなたでも乗ることができますので、皆さんでお楽しみください。
※未就学児は保護者の同乗が必要です。



繰り返す上昇下降でスリル満点！



高さ7メートルからの眺めは最高です



鹿児島市 平川動物公園

〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1
TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328

■開園時間：午前9時～午後5時（入園は午後4時30分まで）

■休園日：12月29日～1月1日

URL <http://hirakawazoo.jp/>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>

Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>

YouTube <https://www.youtube.com/c/hirakawazoo>

動物取扱業の種別：展示、販売、保管、貸出 登録番号：生衛動取 第614号、第615号、第616号、第617号
登録年月日：令和3年5月11日 有効期限の末日：令和8年5月11日 動物取扱責任者氏名：桜井普子

携帯サイトへ
アクセス！



ZOOっと平川 vol.30 2021年7月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号

TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690

URL <http://k-kouenkousya.jp>

Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

鹿児島市平川動物公園情報誌

2021 vol.30

ZOOっと平川

特集

国内初の取り組み！
新コアラ館がオープンしました

国内初の 取り組み!

新コアラ館が オープンしました!

コアラと来園者を隔てるガラスや網がなく、コアラと同じ空間で観察できる施設が2021年3月26日にオープンしました。屋内の「新コアラ館」と屋外の「イベント広場」の2つのスペースがあり、「もっとコアラを近くで見たい! 感じたい!」を体験できる国内初の取り組みの施設です。リニューアルまでの流れと施設の紹介をします。

一部をガラス張りにし明るい施設になりました



新しいコアラ館ができるまで

～構想から着工まで～

平川動物公園にコアラがやってきたのは1984(昭和59)年。建設されてから約40年経過したコアラ館は老朽化も進み、当時の設計思想も現代では少し古くなっていました。もっとコアラが過ごしやすく、飼育頭数が増加した際にも、ゆとりのある飼育環境を維持したいと考えていました。そこでコアラ担当者を中心に、2018(平成30)年から基本構想を作り上げました。屋根しかなかった屋外展示場を空調完備の室内施設へ建て替えることを前提に、コアラを間近で観察でき、もっと興味を持っていただける施設を目標に、細かい調整を進めました。そこで決めたのが、

- ① 同じ空間で観察できるウォークスルー方式を採用する。
- ② 自然光をふんだんに取り入れ、ユーカリの栽培に挑戦する。
- ③ 最終的にはコアラが暮らす森のイメージに近づける。

などを柱とした構想です。



イメージを明確にするため
図面から立体模型を作りました



来園者との間にさえずるものがなく、
コアラを近くで感じることが出来ます

とはいえ、国内のコアラ飼育動物園でこのような施設はありませんので、オーストラリアの施設や植物園の温室、水族館などを参考に、イメージ図を作成していききました。
着工の半年前(2020年春)には、実施設計図の素案が完成し、手直しを加えながら、完成形に近づけていききました。



仮住まいのプレハブ棟で
くつろぐブンダ

それから新施設に植栽するユーカリの準備も進めました。苗から植えては時間がかかりすぎるので、植え付けて2〜3年経過した木の移植準備にも取り掛かりました。いきなり木を抜いて植えても、移植に弱いユーカリは上手く育つ保証はありません。そこで予め太い根を切っておき、移植の際にダメージを少なくする「根切」を、移植候補のユーカリに行いました。これが昨年の4月のことで、新施設オープン予定の1年前のことでした。



専門の造園業者の方が作業を行い、
移植に備えました

建設の準備ができた2020年8月下旬より、建設作業が本格化していききました。

工事の工程は大きく分けて2つありました。まずは既存屋外展示場の解体です。約10か月の工事期間中、この屋外展示場を使用していたオスのブンダとバンブラの2頭は、このままでは非公開の狭い屋内個室での管理となってしまいます。そこで、少しでも環境の良い仮住まいで過ごさせたいと思い、特別に工事期間中のみ利用するプレハブ棟を準備しました。おかげで、ブンダとバンブラは快適に生活することができました。そして重機による解体工事には、大きな音と振動がつきものです。建物内とはいえ安心はできませんので、常にコアラたちの様子を注視しながら解体工事を進めていきました。着工から約2か月後には完全に更地となり、「ここから新しい建物ができるのか〜」と、あまり実感がわかなかったのを今でも覚えています。



イベントで多くの方が
集まる展示場でした



既存屋外展示場の解体も進みます



更地になり建設の準備がはじまります

～建設着工からオープンまで!～

更地になった旧屋外展示場跡に、大まかな建物の位置が線引きされ、基礎工事が始まりました。鉄筋コンクリートの建物ですのでコンクリートを打設する作業が連日続きました。まだまだ建物の全貌が見えませんが、細かい打ち合わせは工程会議やメールで常に行っていました。例えば水栓やコンセントの位置、コアラが暮らす組木の配置などなど、各専門業者との調整作業を連日行っていました。



擬木で柱を隠す作業は専門業者が行ないました。配筋後にコンクリートで造り出しを行い、本物そっくりに仕上がりました。



木枠や系で施設の外枠の位置出しがあり、地盤補強も行いました。



コンクリートを打設する作業が連日続きました。



本物そっくり!?

after

動物を飼育する上で最も気を遣うのは、ケガや事故につながる配置になっていないかということです。ちょっとした突起や隙間でも、爪をかけて登ったり、挟まったりすることがあります。歴代のコアラ担当者の意見を聞き、飼育しているコアラの行動を今一度観察し検討を重ねました。

特に気を遣ったのが組木の配置です。観覧通路から近すぎると、ジャンプして飛び移る可能性もあります。しかし遠すぎるとコアラとの距離が離れてしまい、観察しにくくなり、スペースを有効活用できません。そこで絶対に飛び移ることのできない距離で、コアラも落ち着いて過ごすことができる基準の距離を設定しました。これをもとに組木の配置を決定し、専用の基礎を施設内に設置しました。それと施設中央にある2本の柱を隠すための、擬木の形状にもこだわりました。地面から登れるような形状にすると、手すりに手が届き簡単に脱走してしまいます。そこで先端部分のみ爪が引っかかる形状にし、途中の表面は滑らかにし、コアラが登れないようにしました。

まだ試験段階ですが、組木から橋のように横木を渡し、観覧者の頭上で休んでいる様子を観察できるように準備をしています。休むための横枝の角度は、実際にコアラが休んでいる組木の角度を計測し決定しました。こちらの擬木の運用は、段階的に試していきたいと思いますので、楽しみに待っていてください。

基礎も完成し組木の位置を調整しました。



さて、工期終盤には施設の外壁やガラスなども取り付けられ、ずいぶんイメージがわいてくるようになりました。いよいよラストスパートです。床や壁面の色を最終決定し、組木や移植用ユーカリの設置にも取り掛かりました。組木用のクヌギは、山に向き、適した形状のものを担当者が選んで切り、運び込みました。60本以上の木の表面を高圧洗浄機で洗浄し、チェーンソーでカットする作業が連日続きました。それ以外にも個体紹介パネルや既存施設に設置するパネルの作成など、パソコンに向かうデスクワークも並行して進めていきました。



既存コアラ館にはコアラ飼育の歴史や飼育の注目ポイントをパネルで掲示しています。



組木にはクヌギとスギを利用し、開孔状や長さを見ながら配置を決めました。



移動直後のブンダ
この後すぐにエサを食べました。ほっとしたのを覚えています。

そして一番肝心で心配していたのがコアラの移動です。コアラが施設を気に入ってくれないと意味がありません。なにより新居に引っ越しても、慣れるまで時間を要します。最低でも10日から2週間は必要と想定していたので、オープンの日より逆算し、日程を調整しました。また移動させるコアラの選定も必要です。12頭のうち7頭を新施設へ移動したいと考えていました。どの個体を移動させるか非常に悩みましたが、個体の性格や性別、今後の繁殖計画などを元に決定しました。新施設には、オスのブンダ（我が道を行く性格）、ヒマワリとキボウ（若くて好奇心が旺盛）、ユイとレイ（気の合う2頭で同室展示を継続）、イト（落ち着いたのんびりとした性格）の6頭を移動候補とし、イベント広場にはオスのバンブラを配置することにしました。

移動当初は、さすがに6頭共そわそわしていましたが、その日のうちにユーカリも食べ、徐々に環境の変化にも慣れていきました。今では普段の暮らしぶりを来園者の皆様の前で披露してくれています。

今後はこの新コアラ館から、コアラの生き様をもっと皆様に情報発信していければと考えています。赤ちゃんも誕生するでしょうし、本能のままに鳴いたり、地面をあるくオスの様子、飼育担当者とコアラの関係など、日本で一番、コアラを感じることができる施設として、様々なことに取り組んでいきたいと思っておりますので、何度でも足を運んでいただき、ゆっくり楽しんでいただければと思います。

最後に

バンブラが6月14日に悪性リンパ腫のため亡くなりました。8歳でした。落ち着いた性格で、ヒマワリやキボウなど4頭のお父さんとして活躍してくれました。皆さんにはこれまで温かく見守っていただき、ありがとうございました。



イベント広場のバンブラ
昼間は落ち着いてぐっすり眠っています(^_^)



新コアラ館/ オープニングセレモニー を開催しました！

2021年3月26日の新コアラ館オープンに合わせ、オープニングセレモニーを行いました。今回は、コアラ2頭とチンパンジーの赤ちゃんの命名式も合わせて実施しましたので、その様子をご紹介します。



まずは新コアラ館の入り口前で、鹿児島市・下鶴鹿児島市長始め関係者によるテープカット。「いよいよオープンだなあ!」という思いが一気に高まります。

続いてくす玉開き。動物公園近くの福平保育園の皆様にお手伝いいただきました。元気よく引っ張っていただき、中から『祝「新コアラ館」完成』の垂れ幕が登場！

◀ 左から福守動物公園長、鯨島公園公社理事長、下鶴市長、川越市議会議員、橋元太陽ヶ丘町内会長

命名式会場は、こちらも新たに完成した「イベント広場」に移りました。ユメ(母親)とソラ(子)親子をそれぞれ抱いた飼育員が登場すると、歓声が上がりました。



下鶴市長から「コアラの生息環境を再現し間近で観察することができます。平川動物公園に新たな魅力が加わりました。益々楽しんでいただきたいと思います。」とご挨拶いただきました。



「素敵な名前をありがとうございました!」下鶴市長より記念品の贈呈がありました。

続いて命名式です



命名者代表として、3名の方に出席していただきました。

- ・コアラの「イツキ」の命名者:
曠原 真由美(ひろはら まゆみ)様
- ・コアラの「ソラ」の命名者:
福山 文太(ふくやま ぶんた)様
- ・チンパンジーの「ライチ」の命名者:
汰木 蓮紳(ゆるき れんしん)様



名付けられたコアラたちとご対面。



セレモニーの後、いよいよ一般公開となりました。コアラを間近で観察できるようになり、皆様は熱心にご覧になっていました。多くの方に出席いただき、盛大にオープンを迎えることができました。ありがとうございました!

アカマタ

有鱗目ナミヘビ科
学名: *Dinodon semicarinatum*
英名: Ryukyu Odd-tooth Snake
分布: 日本(奄美諸島、沖縄諸島)



2021年3月16日、神戸市立須磨海浜水族園より来園しました。
奄美諸島・沖縄諸島にのみ生息するヘビで、日本の固有種です。体長は80~170cmと大型で、背側の赤と黒のバンド模様が特徴です。生息域としては、平地から山地にかけて広く、人里近くや海岸にも生息しています。食性は動物食で、小型の哺乳類や鳥類、は虫類、両生類など幅広い生き物を食べ、自分よりも小さなものであれば、あのハブをも食べることが知られています。夜行性傾向が強く、気性は荒いとされていますが、ハブとは違い無毒です。毒は持ちませんが、尾の付け根に臭腺があり、ピンチのときには非常に臭い液を分泌します。奄美諸島には多く生息しますが、鹿児島市内には生息せず、飼育展示している施設も少ないので、ぜひ一度見に来てください。

アマミトゲネズミ

天然記念物

齧歯目ネズミ科
学名: *Tokudaia osimensis*
英名: Amami Spiny Rat
分布: 奄美大島



奄美大島のみに生息する固有種です。約2cmの針金状の体毛を持つため、「トゲネズミ」と名付けられました。

アマミトゲネズミ生息域外保全における飼育繁殖技術の確立と、今後の安定した飼育下個体群の維持を目的として、平川動物公園でも飼育が始められました。現在は「リスの森」内に屋内施設で4頭のオスの飼育に取り組んでいます。非公開ですが、SNS等で情報発信をしていきたいと思っています。

どうぶつ

ZOO 館



フンボルトペンギン

南アメリカのチリやペルーといった温暖な地域の沿岸に住むペンギンだよ。飛ぶことはできないけど、泳ぎが得意なフンボルトペンギンのヒミツを紹介します。



とても速く泳ぐことができ、速さは時速10kmにもなるよ。その理由は、水をかきやすいフリッパーと呼ばれる翼を持っていることや、水の抵抗を受けにくいラグビーボールのような体形をしているからだよ。

水の中ではフリッパーを使って自由自在に泳ぎ回るよ！

歩き方は、よちよち歩き。その理由は、ひざを曲げた状態で歩いているからだよ。人間でいうと、しゃがみながら歩いている感じ。不便そうに見えるけど、体の熱を逃がしにくくなったり、水圧からお腹を守ることができる、という点と良い点があるんだ。

ひざは体の中に隠れて見えないけど、常に曲げた状態！



1組のオスとメスが繁殖(卵や子どもを産むこと)するのは1年に1回。卵は2個産み、オスとメスが交代で温め40日くらいでふ化するよ。ヒナはエサとして、親が食べた魚などを口移ししてもらおうよ。すくすく成長して生後2~3カ月くらいで、体の大きさが親とあまり変わらなくなるよ。

ヒナ(左)と母親(右)。生後2カ月で、こんなに大きく成長します。

オグロプレーリードッグ

- 生年月日 2021年2月6日 出生確認
- 頭数 5頭
- 性別 オス4頭、1頭は性別未確定

北アメリカの草原地帯(プレーリー)に群れを作り生息しています。昼間は食べ物を探して動き回りませんが、夜は地面に掘った巣穴の中で眠る昼行性の動物です。天敵が近づくと「キャンキャン」と犬のような鳴き声を発することが名前の由来になっています。

こんな動物

分類: 齧歯目リス科
分布: 北アメリカ
生息環境: 草原地帯(プレーリー)
食性: 草食でイネ科植物を好む

誕生



▲目も開いていません

生まれたばかりの頃は毛が生えておらずピンク色です。巣穴の中で出産したため、なかなか姿が確認できず心配しました。出産確認から10日後の2月16日、みんなで寄り添って暖め合っています。

巣穴の外へ



▲毛が生えてきました



▲子育て中は警戒心が高まります

動きまわる



▲プレーリードッグになってきた!?

3月15日。目が開き、見た目も完全にプレーリードッグになりました。少しずつ自分の足で遠くまで動けるようになってきました。



展示場で
元気に過ごしています!

3月23日に初めて展示場に出ました。現在は5頭とも元気に展示場を走り回っています。

アカカンガルー

- ミラン 性別メス 2021年4月4日出袋
- マリル 性別メス 2021年4月11日出袋

コアラやカンガルーなどの有袋類の場合、出産を確認することが難しいため、母親の袋から出てきた日の6カ月前を誕生日としています。生まれたときの体長は約2cmで、体重は1gにも満たないですが、自力で母親の袋の中に入り、その中で母乳をもらって約6カ月過ごした後、袋から出て活動するようになります。

アカカンガルーの体毛は、オスが赤褐色、メスが灰色であることが多く、マリルの体毛は茶色混じりの灰色ですが、ミランの体毛はオスのような赤褐色をしています。オーストラリアの自然ゾーンのアカカンガルーの群れの中で一際小さいミランとマリル。体毛の色で区別できるので、ぜひ観察してみてください。

こんな動物

分類: 双前歯目カンガルー科
分布: オーストラリア
生息環境: 草原、砂漠
食性: 草、木の芽や葉などの草食性



▲マリル(手前)とミラン(奥)群れの中ですくすく育っています。

チンパンジー

- ライチ 性別メス
- 生年月日 2020年12月21日生まれ

こんな動物

分類: 霊長目ヒト科
分布: アフリカ
生息環境: 森林
食性: 雑食

母親のイチエはイチローに続き2度目の出産です。夜間の出産でしたので、早朝に確認した際には、しっかりと赤ちゃんを抱いていました。その後授乳も確認され順調な子育てがスタート。ところがお兄さんになったイチローだけは少し様子が違いました。これまで夜はイチエの横で寝ていましたが、少し離れた所で寝たりと落ち着かない様子でした。赤ちゃんのチンパンジーを見るのは2回目でしたが、出産の様子を目の前で見ていた上に、母親の様子がいづれと違ったからでしょう。しかし、初めて赤ちゃんのチンパンジーを見たときは、少し手荒に触れていましたが、今回は優しく触れるなど、イチローの成長した姿も観察することができました。

チンパンジーの子育ては、母親は赤ちゃんを常に肌から離さず抱いて行きます。赤ちゃんは母親から離れようとする「フッフッフッ」と声を出し母親に不安な事を知らせます。もっと不安や怖い時、母親から離れられそうな時には「ギャー」ととても



▲ライチ(中央)を抱くイチエ(左)とイチロー(右)



▲展示場のタワーの上でもずっと一緒



▲群れで過ごすライチとイチエたち

大きな声を出す場合もあります。半年ほど経ち、歯も生えてきて、小さく柔らかい食べ物を口に入れるようになりました。少しずつですが、イチエから離れて自由に動きまわるようになっていきます。

チンパンジーの成長は他の動物と違いゆっくりで、子どもの期間は7年程あります。その間に群れの中でチンパンジーとして生きるためのルールや知恵を身に付けていきます。お兄ちゃんのイチローやジャンベにとってもライチの誕生は、とても貴重な経験となる事でしょう。